

国語 第2学年 ビーバーのひみつをつたえよう

検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：ビーバーの工事を、仕事の順序と体の働きに注意して読み、大事な言葉を使って説明する。写真から感じたすごさだけで終わらず、何をどのように行うかを本文で確かめる。C(1)ウ・C(1)カの学習として、ビーバーの工事紹介。工事の順、体の使い方、大事な言葉、読み手が知りたいことを整理する。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、工事の様子を表す重要な語や文を選び、読んで確かめたことを友達に知らせているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。C(1)ウ・C(1)カの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：ビーバーの工事紹介を残す。工事の順、体の使い方、大事な言葉、読み手が知りたいことを整理する。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、C(1)ウ・C(1)カに関わる学習の中身を確かめる。

指摘 4：難しさのある児童にはどんな支援をするか。

返し：工事の結果だけを話す。人間の道具を使うように想像して説明する。これについて、工事の手順を自分の絵や短文にし、その横に体の働きを記す。本文で確かめたことと想像を分ける。動作で説明した後も、基にした言葉へ戻る。〔知識及び技能〕(2)アとC(1)ウ・C(1)カを切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「ビーバーが工事をする様子を知らせるには、どんな順序で、どの動きを表す言葉を使いますか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、C(1)ウ・C(1)カに関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：ビーバーの工事紹介は紙に記録できる。工事の順、体の使い方、大事な言葉、読み手が知りたいことを整理する。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をC(1)ウ・C(1)カの評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は東京書籍の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。C(1)ウ・C(1)カで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：詳しい生態を調べて追加するのか。

返し：C(1)ウ・カの中心は本文の重要な語や文を選んで共有することである。追加調査は教科書の内容と出典を区別し、本文にない仕組みを想像で補わない。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「ビーバーが工事をする様子を知らせるには、どんな順序で、どの動きを表す言葉を使いますか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。C(1)ウ・C(1)カに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

